

論点すり替え何も答えず、提言ささずは無理解。学術会議の提言「過重労働・過労死防止」は森岡氏も特任連携会員で加わり、過労死防止法制定に重要な役割を果たす。10月14日のゼミは、個人報告：「1930年代の世界」の後半「反ファシズム戦争への転機」からを、小野さんの報告で行いました。アメリカの武器貸与法成立、ドイツのソ連侵攻、日本の真珠湾攻撃の三つの出来事が戦争の性格を根本から変え、反ファシズムの戦争になった。ソ連のドイツへの勝利はソ連が抵抗したからアメリカが援助したことにある。中国革命は抗日で国民党と統一し死守し、その後の内戦で中華人民共和国が成立したが、欧州での反ファシズム統一戦線は弱く、戦後瓦解した。それ以後世界戦争は起きず、冷戦も世界戦争に発展しなかったのは、武器の発達で話し合い外交の段階で、9条が生きる世界に生まれ変わる。討論では、近著『独ソ戦』ではソ連の軍事力を高く評価し、ドイツでは国防軍とヒットラーの関係を問題点として取り上げている。1930年代は帝国主義戦争の間(はさま)であるが、帝国同士の対立の中で日本の立場はどうだったのか。バルト三国と違い、フィンランドはソ連軍との戦いに勝って独立を守った。列強国対立の中で弱小国はどうするのか。南沙諸島のベトナムと中国の対立、中国の日本への侵略はあるか。米中対立で日本はポーランドになる。80年間アメリカの支配下、沖縄独立論も。9条・国連を活かす。出席は、小野さん、高島さん、川口さん、松村さん、斎藤さん、竹内さんと高田の7名でした。

\* 10月28日ゼミは、『資本論』第3巻第34章の後半、S571のエンゲルスの挿入文の後からです。

\* 第2週の新しいテキストは斎藤幸平『人新世の「資本論」』（集英社新著）に決まりました。テキスト入手の都合上、11月11日ゼミは下記の論稿を行い、斎藤本は12月9日ゼミからになります。

\* 11月11日のゼミは、岸本聡子「地域自治で、グローバル資本主義を包囲する」（『世界』2020年11月号）を行います。なお、時間がありませんでしたら、テミンのルイス・モデルについても報告があります。

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

10月28日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』第3巻34章 通貨主義・銀行立法(後半) 報告高田

11月11日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
岸本聡子「地域自治で、グローバル資本主義を包囲する」 報告川口さん

11月25日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』第3巻35章 貴金属と為替相場 報告者未定

12月9日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『人新世の「資本論」』※範囲・報告者未定

その後 12/23, 1/13, 1/27, 2/10, 2/24 (アイクルの部屋)